

# 彙報

二〇一七年四月より  
二〇一八年三月まで

Autonomous Prefecture.

發表者 池田 巧  
西夏國に於ける「抄」の構成と機能について

## 研究狀況（二〇一七年度）

四月一五日

牧夫の終末―消えていくチベット  
の牧畜業と改革を希む人々

發表者 別所裕介

## 公募型研究班

班長 岩尾一史

五月二〇日

青海ホシユート部のアムド支配  
の形成と清朝による解體・再編

發表者 岩田啓介

「研究会と研究報告」…本年度は合計で八回の研究會を行うことができた。班員それぞれの研究關心に沿った研究報告を依頼し、歴史學、文化人類學、言語學の各分野から、古代・現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究報告を聞くことができた。本年度の特徴としては、班員が主催あるいは關與したチベット學關係の學會や國際討論會が開かれて、本研究班の構成員との間での活發な研究交流が行われた。また例會においては議論の時間を出来るだけ多く取ったことにより、異分野からの情報提供・意見交換をより活發に行うことにも成功した。各回の具體的な内容は以下の實施内容を参照されたい。

六月一七日

「二三條章程」制定からみる清朝の對チベット政策

發表者 黒田有誌

七月一五日

越境する梵文寫本…中世のヒマ  
ラヤ地域、南アジアにおけるモノと人との交流

發表者 加納和雄

駒澤大學

「研究成果報告論集の編集」…本研究班の成果をまとめた研究報告論集『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』の編集會議を研究会開催時に複数回行ない、年度末の刊行に向けて編集作業を進めた。

一〇月二一日

A Phonological Sketch of a  
Tibetan Khams Dialect Spoken  
in Mingyong Village in the  
Yunnan bDe chen Tibetan

二〇一八年一月二〇日 『ボーデイサツト

ヴァ・アヴァダーナ・カルバラ  
ター』（バクサムテイシン）の  
タンカに描かれたイメージ

發表者 大羽惠美

金澤大學文化資源學

研究センター

客員研究員・非常勤

三月一七日

チベット語の未完了繼續相の助  
動詞句の歴史的推移

發表者 星 泉

東京外國語大學アジア・

アフリカ言語文化研究所

オーラル・ヒストリー・アーカイヴスによる戦後

日本映畫史の再構築

三年計畫の第二年度である本年度は、まず年度

初めの四月三〇日（日）に第一回研究會を開催、

ゲストとして、映畫プロデューサー・監督の岡本

みね子氏（中みね子氏）をお招きして、主として

岡本みね子氏の亡き夫である岡本みね子氏監督の

諸作品を陰で支えた映畫作りの實務面について話

を伺った。また、付き添い役として、岡本喜八

氏・みね子夫妻の娘で女優の岡本眞實氏（前田眞實氏）にも同席してもらい、補足説明をして頂いた。第二回研究会六月一日（土）・二日（日）に行われ、初日には先ず大澤佳枝（フリーランス映画研究者）が映画『祇園祭』の資料調査報告を行った。その後、映画俳優として大映・東映という二つの會社で仕事をされた品川隆二氏をゲストに迎える京都における映画製作の現場の様々な事情を俳優という立場から語って頂いた。翌日はオーラル・ヒストリーの方法論に關して菊池曉（人文研）より民俗學の立場から報告していただき、併せて關連映像として『北白川こども風土記』を皆で鑑賞した。第三回研究会は七月一三日（土）の一日のみ、場所もゲストの都合もあつて東京の早稲田大學にて開催した。ゲストには藝能雜誌『平凡』『週刊平凡』で長年、映画業界を取材してきた高木清氏を招き、ファン雜誌と映画會社宣傳部の相互依存的な關係について學んだ。第四回研究会は九月九日（土）・一〇日（日）に開催され、初日には元・大映の經理擔當から大映テレビ社長となつた安倍道典氏を招き、井上雅雄（立教大學名譽教授）の進行の下、大映という映画會社の經營の在り方、そして倒産に至つた経緯についての話の伺い、二日目には谷川建司が進行役を務めて、今後の研究会の在り方について議論を行った。その結果、これまでの（一）、ゲストを招いてのインタビュー、（二）、京都府出資で製作された映画『祇園祭』についての検討、（三）、オーラル・ヒストリーの在り方についての検討、という三つの

柱に加えて、（四）、最終的なアウトプットとしての論考集の出版、という方向性を加えることとなり、次回以降の研究会では順次、論考の許となるメンバー個人の研究発表も行っていくこととなった。また、最終年度に映画『祇園祭』の上映及び同作品に關するシンポジウムを開催することを共通の認識として確認した。第五回研究会は一月一九日（日）に開催された。先ず午前中は井上雅雄による発表（入院することとなつたため木村智哉が代讀）が行われ、午後には元・東寶、三船プロダクションの衣裳擔當だつた池田誠氏をゲストに迎えて、衣裳という觀點で映画製作のシステムを學んだ。第六回研究会は二〇一八年一月最終週もしくは二月第一週の土日二日間にて行われる豫定である。初日には元・日活で美術を擔當した千葉一彦氏をゲストに迎えてセット建設など、美術の觀點で映画製作のシステムを學んだ。二日目には、谷川建司（早稲田大學）が自身の研究テーマについて発表を行った。

四月三〇日 第一回研究会  
岡本みね子氏へのインタビュー  
と質疑應答 司會 谷川建司  
發表者 早稲田大學  
映画監督・製作  
六月一〇日 第二回研究会（一日目）  
映画『祇園祭』資料調査報告  
發表者 大澤佳枝  
フリーランス映画研究者

品川隆二氏へのインタビューと  
質疑應答  
發表者 品川隆二 映画俳優  
司會 谷川建司  
六月二日 第二回研究会（二日目）  
オーラル・ヒストリーの方法を  
めぐつて  
『北白川こども風土記』上映  
發表者 菊池曉

七月一三日 第三回研究会  
高木清氏インタビューと質疑應  
答 司會 谷川建司他  
發表者 高木清  
雜誌編集者

九月 九日 第四回研究会（一日目）  
安倍道典氏インタビューと質疑  
應答 發表者 安倍道典  
大映テレビ（株）  
司會 井上雅雄  
立教大學

九月一〇日 第四回研究会（二日目）  
今後の研究会の方針に關する話  
し合い 司會 谷川建司  
一二月一九日 第五回研究会  
新映画會社の設立構想とその挫  
折・「日映」事件とその歴史的  
意味 發表者 井上雅雄  
池田誠氏へのインタビューおよ  
び質疑應答 發表者 池田誠

元・東寶 司會 谷川建司  
二〇一八年一月二十七日 第六回研究会(一日目)  
千葉一彦氏(映畫美術監督) インタビューと質疑應答  
發表者 千葉一彦  
元・日活 司會 谷川建司

一月二十八日 第六回研究会(二日目)  
時代劇低迷期以後のスターの活躍の場としての舞臺の展開・東映歌舞伎・東寶歌舞伎をめぐって  
發表者 谷川建司

フリーコー研究—人文科學の再批判と新展開  
班長 小泉義之  
本共同研究の中核は、班員がそれぞれの研究報告を行う研究会(例会)である。初年度である本年度は、ここまで、全四回の例会(各回二日連続したがって八日)および一回の特別例会を開催した。例會の組織に当たっては、本研究の成果が單なる個人研究の集積になることを避けるため、各班員は班長と意見交換を行いながら自身の研究テーマを設定し、それぞれの個別研究が互いに有機的に連關し合うようなプログラムの構築に努めている。また、人文・社會系諸學を對象にしたミシェル・フリーコーの仕事を見直す上で、フリーコーが分析した諸言説、およびその諸言説をとりまく歴史的・同時代的言説の總體を原典回歸によつて

讀解し直しつつ、さらにフリーコー自身の分析を追認もしくは反駁する後發研究の檢證を重ねている。各例會のプログラムについては、下記「本年度の研究實施内容」欄を参照のこと。  
五月十三日 第一回例会(一日目)

Histoire de la sexualité. 1: La volonté de savoir (1976)の現行譯について 發表者 小泉義之  
立命館大學  
クロスオーヴァーバルト/フリーコー 發表者 立木康介  
フランスの中絶解放運動とフリーコー 發表者 相澤伸依  
五月一四日 第一回例会(二日目)  
フリーコーにおける精神分析と狂氣・『狂氣の歴史』から『精神醫學的權力』まで  
發表者 上尾眞道  
滋賀大學・非常勤

博士論文報告『主體化の哲學のために—ミシェル・フリーコー研究』 發表者 藤田公二郎  
大阪大學  
七月一五日 第二回例会(一日目)  
フリーコーと法 (Loi, Droit) 發表者 西迫大祐  
明治大學  
フリーコーと文學 發表者 森本淳生

七月一六日 第二回例会(二日目)  
生權力を包含する現代メンタルヘルス・サイエンスに從屬する規律權力としての精神醫學  
發表者 ニコラ・タジヤン  
國立精神神經醫療研究センター  
フリーコーと「眞理」の言語化 發表者 武田宙也  
大學院人間・環境學研究科

九月三〇日 第三回例会(一日目)  
ポリスと統治…福祉國家以後の(その一) 發表者 前川眞行  
大阪府立大學  
一八世紀科學史研究におけるミシェル・フリーコーの位置付け…數學の社會史を中心に  
發表者 隱岐さや香  
名古屋大學

一〇月一日 第三回例会(二日目)  
Discontinuité et critique de la notion de «pécurseur» en histoire des savoirs : réflexions sur un défi historiographique de Georges Cangulihen et Michel Foucault  
發表者 Emmanuel Delille  
Centre Marc Bloch  
モラル・トリートメントとは何か…『狂氣の歴史』から考へる

發表者 北垣 徹  
西南學院大學  
二〇一八年一月二六日 特別例會

Michel Foucault face à la complexité des univers normatifs

發表者 Otto PFERSMANN  
招へん 研究員、Écoles des Hautes Études en Sciences Sociales

一月二七日 第四回例會（一日目）

ビッグ・サイエンスと環境のテクノロジー

發表者 瀬戸口明久  
監獄情報グループにおける下層プロレタリア問題

發表者 櫻田和也

一月二八日 第四回例會（二日目）

三つの『侍女たち』：フーコー、ラカン、森村

發表者 立木康介  
フーコー『狂氣の歴史』における『ラモアの甥』の位置

發表者 王寺賢太

三月一七日

第五回例會（一日目）

「自己への配慮」を促す他者の他者性—フーコー『主體の解釋學』、『自己と他者の統治』、『眞理の勇氣』における有限性の機

能 發表者 千葉雅也  
立命館大學

パレーシアと精神分析

發表者 春木奈美子  
人文研・日本學術振興會

三月一八日 第五回例會（二日目）

フレンチ・セオリーとしてのフーコー（サイドとフリー） 發表者 中井亞佐子  
一橋大學

告白、パレーシアから「文學的」語りへ—隷屬化されない主体化を求めて  
發表者 上田和彦  
關西學院大學

東方學研究部

『文史通義』研究

班長 古勝隆一

本年度は五月一六日に最初の研究班を開催して以来、おおむね二ヶ月に三回のペースで『文史通義』の會讀を實施した。前年度に引き続き、活潑な議論を重ねており、問題が完全に解決してない部分については、議事録を作成し、後日あらためて検討することができるよう記録を保管してある。あらかじめ擔當者を決めて、會の數日前に譯注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したため、研究班では效率的に議論することができた。本研究班では『文史通義』内篇五卷を譯出することを目的とし

ており、卷一の部分については『東方學報』九一號に掲載済みで、現在、卷二の前半部分を『東方學報』九二號に入稿中で、三月には出版される予定である。現在、卷三について譯出中。『東方學報』九三號には、卷二の後半部分を入稿する予定である。

五月一六日 『文史通義』卷二「言公下」譯注 發表者 竹元規人  
福岡教育大學

六月二〇日 『文史通義』卷二「言公下」譯注 發表者 竹元規人  
福岡教育大學

七月 四日 『文史通義』卷三「史德」譯注 發表者 小島明子  
お茶の水大學

七月 一八日 『文史通義』卷三「史德」譯注 發表者 小島明子  
お茶の水大學

九月 一九日 『文史通義』卷三「史釋」譯注 發表者 渡邊 大  
文教大學

一〇月 三日 『文史通義』卷三「史注」譯注 發表者 古勝隆一  
文教大學

一〇月 一七日 『文史通義』卷三「傳記」譯注 發表者 陳 佑眞  
京都大學文學部研究科  
博士課程

一一月 二二日 『文史通義』卷三「習固」譯注 發表者 白須裕之  
『文史通義』卷二「習固」譯注

一二月 五日 『文史通義』卷三「朱陸」譯注 發表者 福谷 彬  
（前半）

京都大學大学院文學研究科  
博士課程

一二月一九日 『文史通義』卷三「朱陸」譯注  
(後半) 發表者 趙ウニル  
京都國立博物館

二〇一八年一月一六日 『文史通義』卷三「書  
朱陸篇後」譯注 發表者 古勝隆一

二月二〇日 『文史通義』卷三「文德」譯注  
發表者 重田みち

轉換期中國における社會經濟制度

班長 村上 衛

本年度は三年計畫の二年目にあたり、若手・中堅を中心として計一六回の研究会を行った。毎回の参加者数は二〇〜二五名ほどで、本學文學研究科の院生をはじめとする若手の班員からも積極的な参加と發言を得た。本研究班は時代的・テーマ的に廣い範圍を扱うため、中國近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中國研究者、また人文科學系だけではなく、社會科學系の經濟史研究者に参加していただいている。コメンテーターは關西に限定せず、首都圏や仙臺・松江などの各地から報告テーマに即した研究者を招聘した。いずれの報告に關しても活發に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて三時間半近くになることも多かった。なお、本研究班では定例の研究会に加えて班員による出版書の書評會(年六月四日、岡本隆司著『中國の誕生 東アジアの近代外交と國家形成』)や、特別講演會(年六月二四日、尤

淑君(浙江大學歴史系副教授)「清帝國對朝鮮の宗藩禮儀與名分秩序」を行い、中國の「制度」をさらに多角的に研究する機會を設けた。

四月二八日 清代同治朝巴縣檔案竊盜件的研究・従法制史、社會史到物質消費史的初探 發表者 巫 仁恕  
中央研究院近代史研究所

コメンテーター 伍 躍

五月一九日 日中戦争期、寒羊・壽陽羊に關する日本の調査活動  
大阪經濟法科大

發表者 吉田建一郎

コメンテーター 富澤芳亞

六月 二日 消費都市から生産都市へ…計畫經濟期の南京と大廠  
總台人間(博士課程生)

發表者 潘藝心

コメンテーター 柴田陽一

六月一六日 政治論としての「後學」再考…ナシヨナリズムと自由・民主  
攝南大

發表者 瀧田 豪

コメンテーター 森川裕貴

六月三〇日 従反迷信到萬緣會…廣州到東南亞的城市救贖儀式  
京都産業大

發表者 蔡 志祥

香港中文大

七月 七日 清朝外交と海牙公斷  
箱田惠子

發表者 京都女子大

コメンテーター 松重充浩  
日本大

七月二日 總理衙門大臣の活動―對イギリス漢文史料の分析を中心に  
荻惠里子

發表者 京都府立大(博士課程生)

コメンテーター 大坪慶之  
三重大

九月二九日 朝鮮外交の近代―宗屬關係から大韓帝國へ―  
森萬佑子

發表者 京都府立大(日本學術振興會特別研究員)

コメンテーター 石川亮太  
立命館大

一〇月一三日 琉球王國の西洋通事  
張子康

發表者 文(博士課程生)

コメンテーター 横山伊徳  
東京大

一〇月二七日 世紀轉換期香港の衛生政策―中國人居住環境をめぐる議論を例として  
小堀慎悟

發表者

文(博士課程生)

コメンテーター 福士由紀  
首都大

一月一七日 アメリカ外交官と清議派の同床  
異夢―「越南問題」(一八八三  
年)における仲裁と國際世論喚  
起をめぐる試み

発表者 望月直人  
京都大學・非常勤  
コメンテーター 三牧聖子  
高崎經濟大

二月 一日 「滿洲國」工業化をめぐる日滿  
間非公式調整制度の創出

発表者 兒玉州平  
九州産業大  
コメンテーター 平井健介  
甲南大

二月一五日 清代嘉慶・道光年間における北  
京の回漕問題 発表者 堀地明  
北九州市立大

コメンテーター 田口宏二郎  
大阪大

二〇一八年一月二六日 土地改革前後、土地利  
用に對する共同規制と村の領域  
の存在形態… 廣東省高要縣金  
東圍を中心に

発表者 片山 剛  
大阪大  
コメンテーター 井黒 忍

三月 九日 清朝の貿易管理と牌照・執照―  
アヘン戦争以前を中心に―

発表者 彭 浩

三月一六日 近代廣東東部史―戦う村落  
から農民運動へ

発表者 蒲 豊彦  
京都橋大  
コメンテーター 阿南友亮  
東北大

東アジア古典文献コーパスの實證研究

班長 安岡孝一

平成二九年度前半は、S式によって漢文のメタ  
文法(文法の文法)を記述する手法に對し、  
Edwin George Pulleyblank の『Outline of Clas-  
sical Chinese Grammar』の各例文を記述する  
とで、その有効性の檢證をおこなった。その結果、  
この手法は有効であるものの、作業のためのオー  
バーヘッドが大きく、『Treebank』等の「量産化」  
には不適當な側面があることが判明した。そこで、  
平成二九年度後半は、『Universal Dependencies』を  
用いて、漢文の依存文法解析をおこなう手法をも  
検討した。これに伴い、S式によるメタ記述と、  
Universal Dependencies による依存文法記述の、  
兩方を同一の例文に適用し、その得失(というか  
得手不得手)の比較をおこない続けている。

四月二一日 二〇一七年度前半活動方針

五月二日 「晉克衛磁洛州」をどうするか

六月二日 Outline of Classical Chinese  
Grammar の例文檢討

六月一六日 Outline of Classical Chinese  
Grammar の例文檢討

七月七日 Universal Dependencies Tools  
七月二日 Outline of Classical Chinese  
Grammar の例文檢討

九月八日 Outline of Classical Chinese  
Grammar の例文檢討

九月二日 漢文 Universal Dependencies  
(假)

一〇月六日 Outline of Classical Chinese  
Grammar の例文檢討

一〇月二〇日 SVGによるCoNLL-Uユー  
ザ

十一月二七日 漢文 Universal Dependencies  
(假)

十二月一日 MeCab-Kanbun to CoNLL-U

十二月一五日 MeCab-Kanbun to CoNLL-U

二〇一八年一月二二日 SVGによるi:tree  
ユーザ

一月二七日 人文科學とコンピュータ第一一六  
回研究發表會

一月二八日 人文科學とコンピュータ第一一六  
回研究發表會『古典中國語  
Universal Dependencies への挑  
戰』



東西知識交流と自國化―汎アジア科文化論

班長 武田時昌

東アジア世界の科文化を構造的に把握するために、異國間における科知識の接觸、受容と自國化の諸様相にスポットを当て、汎アジア的視點から多角的な考察を試みた。本年度は、國內外から招聘した研究者や班員の研究発表會を行いながら、佛教天文学や中國占術書の讀書ワークシヨップを並行して開催した。會讀テキストは、佛教天文学では『宿曜經』、中國占術書では陰陽五行・日書關連の出土簡帛および『卜筮元龜』である。一〇月二五―二八日には、宇宙ユニット、白眉センターとの共催で、『天と地の科―東と西の出會い』を總合テーマとする大規模な國際會議を開催した。また、八月、一二月には近年に出土した老官山醫簡の調査チームの研究者（八月は成都中醫藥大學から四名、一二月は中國中醫科學院中國醫史文獻研究所より四名、成都文物考古研究所より一名）を招聘し、研究成果や最新情報を講演してもらい、中國醫學のパラダイム形成をめぐって週及的な討議を繰り廣げた。

四月 九日 後鳥羽上皇の水無瀨離宮の構造と風水思想との關わりについて  
發表者 豊田裕章

大阪府立豊中支援學校教諭

近代中國における結核知識傳來

發表者 瞿 豊丹

京大文学研究科博士課程

近代日本の音楽療法・東西知識

交流一側面 發表者 光平有希

國際日本文化研究センター  
研究員

五月一七日 宿曜經研究會 釋圓通著述研究  
發表者 小林博行

中部大學

六月二七日 歐米遊學報告・NY大學・ブラ  
ウン大學共同研究に参加して  
發表者 Bill Mak

京大人文研特定准教授

「地有四游」管窺  
發表者 伊藤裕水

京大文学部非常勤講師

江戸期のヴェイジュアルカル  
チャー 發表者 尾鍋智子

大阪大學未來戦略機構  
特任准教授

從望氣和風雨占傳統到明末清初  
的氣象學…方氏學派的個案  
研究 發表者 張 瓊

アメリカ、ウエイクフォレスト  
大准教授、人文研招へい研究者

八月二五日 老官山漢墓醫簡《六十病方》病  
名釋義（老官山漢墓の醫簡「六  
十病方」の病名釋義）  
發表者 和中 浚

成都中醫藥大學中醫藥  
博物館元館長、研究員

老官山出土醫簡診法條文研究

發表者 李 繼明

成都中醫藥大學  
國學院院長、研究員

老官山漢墓人體經穴漆人穴位數  
量及分布特點研究  
發表者 周 興蘭

成都中醫藥大學圖書館  
古籍部副主任、助理研究員

富士川游文庫の分類目録化につ  
いて 發表者 高津 孝

鹿兒島大學法文学部、教授

一〇月二五日 Kyoto University International  
Symposium : International Cor-  
ference on Traditional Sciences  
in Asia 2017 : East-West En-  
counter in the Science of Hea-  
ven and Earth

How astral science crosses  
cultural and social boundaries :  
The Geneva sphere as an  
astronomical consumer item in  
early Edo Japan  
發表者 Christopher  
CULLEN

Emeritus Professor and Direc-  
tor, Needham Research Insti-  
tute and Darwin College, Uni-  
versity of Cambridge, UK

The role of culture in shaping

- scientific concepts  
 柴葉祥 Krishnamurti  
 RAMASUBRAMANIAN  
 Professor, Department of  
 Humanities and Social Sciences,  
 Indian Institute of Technology  
 Bombay, India  
 A re-evaluation of some claims  
 for Mesopotamian influence on  
 East Asian astral science  
 柴葉祥 John STEELE  
 Professor and Chair,  
 Department of Egyptology and  
 Assyriology, Brown University,  
 USA 匡會 Marcus WERNER  
 京大博士 口田サハタニ・西  
 Unusual Babylonian astronomi-  
 cal diary -99C in the light of  
 The Book of the Laws of  
 Countries  
 柴葉祥 Yasuyuki MITSUMA  
 Postdoctoral Fellow, Gradu-  
 ate School of Arts and Sciences,  
 University of Tokyo, Japan  
 匡會 Marcus WERNER  
 Scholarly exchanges in the  
 Marāgha Observatory: reas-  
 sessment of 'Urdī's impact on  
 Marāgha associates
- 柴葉祥 Taro MIMURA  
 Associate Professor, Graduate  
 School of Integrated Arts and  
 Science, Hiroshima University,  
 Japan  
 匡會 Marcus WERNER  
 The forgotten transmission —  
 Arabic and Persian cosmologi-  
 cal knowledge in late imperial  
 China 柴葉祥 Dror WEIL  
 Postdoctoral Fellow, Max  
 Planck Institute for the History  
 of Science, Berlin, Germany  
 匡會 Marcus WERNER  
 The perception of heaven and  
 earth in Indian astronomy and  
 its sequel in the conception of  
 planetary models  
 柴葉祥 Krishnamurti  
 RAMASUBRAMANIAN  
 匡會 矢野道雄  
 京大産業大学・名誉教授  
 Mandalaśvākyas: an interme-  
 diate numerical table used in the  
 computation of planetary longi-  
 tudes  
 柴葉祥 R. Venketeswara PAI  
 Assistant Professor, Indian  
 Institute of Science Education  
 and Research, Pune, India  
 匡會 矢野道雄  
 Analysing the sine computa-  
 tions in an anonymous commen-  
 tary on Paramēśvara's Gola-  
 dipikā<sup>2</sup> 柴葉祥 Sho HIROSE  
 Postdoctoral Researcher, De-  
 partment of Humanities, Social  
 and Political Sciences, Swiss  
 Federal Institute of Technology  
 (ETH) Zurich, Switzerland  
 匡會 矢野道雄  
 Religious festivals of Indian and  
 Persian calendars as transmit-  
 ted by al-Bīrūnī  
 柴葉祥 Noémie VERDON  
 Teaching Fellow, School of  
 Buddhist Studies, Philosophy  
 and Comparative Religions,  
 Nalanda University, India  
 匡會 矢野道雄  
 Greco-Babylonian astral sci-  
 ence in Asia: patterns of dis-  
 semination and transformation  
 柴葉祥 Bill MAK  
 Associate Professor, Hakubi  
 Center and Institute for Re-  
 search in Humanities, Kyoto  
 University, Japan



- ㊦ John STEELE  
 Visualization of the heavens  
 繆繆繆 Sonja BRENTJES  
 Research Scholar, Max Planck  
 Institute for History of Science,  
 Berlin, Germany  
 ㊦ John STEELE  
 The eclipse dragon in medieval  
 Syriac and Manichaean sources  
 繆繆繆 Adrian PIRTEA  
 Research Assistant, Institute of  
 Greek and Latin Languages and  
 Literatures, Free University of  
 Berlin, Germany  
 ㊦ John STEELE  
 Geometrizing Chinese astro-  
 nomy?  
 繆繆繆 Yoichi ISAHAYA  
 Postdoctoral Researcher,  
 Faculty of Humanities, Hebrew  
 University of Jerusalem, Israel  
 ㊦ John STEELE  
 Stars in colors: the Song of the  
 Sky Pacers and its star charts  
 revisited 繆繆繆 SHI Yunli  
 Professor, Department of His-  
 tory of Science and Scientific  
 Archaeology, University of  
 Science and Technology of  
 China, Hefei, China  
 ㊦ Christopher CULLEN  
 Remarks on the foreign/expa-  
 triate leadership of the Tang  
 Astronomical Bureau  
 繆繆繆 Daniel P. MORGAN  
 Researcher, CNRS, SPHERE,  
 University Paris Diderot,  
 France  
 ㊦ Christopher CULLEN  
 Managing heaven and earth:  
 imperial mathematics in early  
 Qing China  
 繆繆繆 Catherine JAMI  
 Professor and Research Di-  
 rector, CNRS, EHESS, Paris,  
 France  
 ㊦ FUNG Kam-Wing  
 Professor, Institute for Hu-  
 manities and Social Sciences,  
 University of Hong Kong, China  
 Western learning, examina-  
 tions, and Neo-Confucianism: a  
 study of the astronomical sec-  
 tion in Ying Huqian's *Xingli*  
*Dazhong* (註釋大中)  
 繆繆繆 CHU Pingyi  
 Research Fellow, Institute of  
 History and Philology, Aca-  
 demia Sinica, Taipei, Taiwan  
 ㊦ FUNG Kam-Wing  
 Heaven vs. empire: the calen-  
 drical reform of Chosŏn Korea  
 in the mid-seventeenth century  
 繆繆繆 Jongtae LIM  
 Professor, College of Natural  
 Sciences, Seoul National Uni-  
 versity, Korea  
 ㊦ FUNG Kam-Wing  
 A reception history of the  
 Western Calendrical System  
 (Shixianli 世宗曆) in Korea  
 繆繆繆 Yong Hoon JUN  
 Associate Professor, Faculty of  
 Humanities, Academy of Ko-  
 rean Studies, Seongnam, Korea  
 ㊦ FUNG Kam-Wing  
 Deciphering Aristotle with  
 Chinese medical cosmology:  
 Nanban Unkiron 南蠻圖說卷之  
 一 and the reception of Jesuit  
 cosmology in 17th century  
 Nagasaki  
 繆繆繆 Ryuji HIRAOKA  
 Associate Professor, Faculty of  
 Letters, Prefectural University  
 of Kumamoto, Japan  
 ㊦ Dagmar SCHÄFER

- Max Planck Institute for History of Science, Berlin, Germany  
 Reading heaven's mind: discourses on astral and meteorological portents in early-18th century Japan  
 德文譯名 Matthias HAYEK  
 Associate Professor, Department of East Asian Languages and Civilizations, University Paris Diderot, France
- 德文譯名 Dagmar SCHÄFER  
 From Taiyi 太一 to Heaven 天: a comparison of the astronomy systems of Xing Yunlu 星雲錄 and Xue Fengzuo 雪風坐  
 德文譯名 ZHU Haohao  
 Postdoctoral Researcher, School of Philosophy, Wuhan University, China
- 德文譯名 Dagmar SCHÄFER  
 Deciphering earth and heaven during the Edo Period  
 德文譯名 Javier PEREZ-JARA  
 Assistant Professor, International Business School, Beijing Foreign Studies University, China
- 德文譯名 Dagmar SCHÄFER  
 The encounter and crossover of astronomical knowledge from east and west in late Ming China  
 德文譯名 Keizo HASHIMOTO  
 Professor Emeritus, Kansai University, Osaka, Japan
- 德文譯名 Jongtrae LIM  
 Professor, College of Natural Sciences, Seoul National University, Korea  
 Mapping East Asia: transmission of Western surveying in China, Japan and Korea (1580-1740)  
 德文譯名 FUNG Kam-Wing  
 德文譯名 Jongtrae LIM  
 'Cosmograph'-tailored maps in late East Asian cartography  
 德文譯名 Vera DOROFEEVA-LICHTMANN  
 Researcher, CNRS, EHESS, Paris, France
- 德文譯名 Jongtrae LIM  
 Two newly discovered ancient Chinese globes in Europe  
 德文譯名 WANG Qianjin  
 Professor, School of Humanities, University of Chinese Academy of Sciences, Beijing, China
- 德文譯名 Jongtrae LIM  
 Seismology in Meiji Japan: emergence of historical earthquake studies  
 德文譯名 Kazuyuki ITO  
 Professor, Graduate School of Letters, Kyoto University, Japan  
 京大東洋文化研究所・教授  
 Analyzing the early 19th century's geomagnetic declination in Japan from Tadataka Inoh's Santou-Houki-Ki  
 德文譯名 Motohiro TSUJIMOTO  
 Member, Japan Cartographers Association, Sakai, Japan
- 德文譯名 Bhaskara VEENADHARI  
 Extreme space weather events as seen in the historical geomagnetic records of Colaba, India  
 德文譯名 Bhaskara VEENADHARI  
 Professor, Indian Institute of Geomagnetism, Navi Mumbai, India  
 德文譯名 家森俊彦  
 Great auroral displays during

the Carrington Magnetic Storm: a crossroads of East Asian history and Western geoscience  
發表者 Hisashi HAYAKAWA  
JSPS Research Fellow, Graduate School of Letters, Osaka University  
司會 家森俊彦

一月五日

東アジアの歴史書にみられる天文記録  
發表者 早川尚志  
大阪大學文學研究科・D1  
佐田介石の學問と思想

熊本縣立大學・名譽教授  
Revisiting Xue Fengzuo's System of Science within the New Horizon of Confucianism  
發表者 朱浩浩  
武漢大學

一月六日  
宿曜經研究會  
新出土醫學簡講演會：成都天回鎮老官山漢墓出土醫簡

天回漢墓醫簡和醫葯文物的重要发现  
發表者 柳長華  
中國中醫科學院教授・

中國醫史文獻研究所原所長  
天回漢墓醫簡中「通天」的涵義與五色脈診  
發表者 顧漫  
中國中醫科學院副研究員・

中國醫史文獻研究所

天回漢墓醫簡整理方法舉隅  
發表者 周琦  
中國中醫科學院助理研究員・  
中國醫史文獻研究所

天回醫簡罕見醫學名物制度考證  
舉隅  
發表者 劉陽  
中國中醫科學院助理研究員・

成都老官山墓主族屬考  
中國醫史文獻研究所  
發表者 謝濤  
成都市文物考古研究所副研究員・

二〇一八年二月一日

醫書に見られる人神について  
發表者 島山奈緒子  
京都大學人文科學研究所・  
非常勤研究員

生藥探偵の冒險  
發表者 濱口昭宏  
おけらの會  
近現代における富山賣藥の變容  
發表者 二谷智子  
愛知學院大學  
經濟學部・准教授

二月二日

宿曜經研究會  
三月三日  
宿曜經研究會  
三月四日  
明清時代の占病文獻とその流布  
狀況―占夢書・通書・日用類書・通俗道教との関わりから

宿曜經研究會  
經濟學部・准教授

發表者 佐々木聰  
大阪府立大學・特別研究員  
宋代の葬儀をめぐる諸問題  
發表者 松本浩一  
筑波大學・教授

三月二十七日 宿曜經研究會  
北朝石窟寺院の研究  
班長 岡村秀典  
水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』（全一六卷三二冊、一九五〇―一九五六年）圖版解説の會讀を隔週の研究會で實施し、本年度は第一三洞から第一六洞までを検討した。さらに水野清一・長廣敏雄『龍門石窟の研究』（座右寶刊行會、一九四一年）の中國語版を出版するのに合わせ、當研究所に所藏する龍門二十品（北魏造像記）の拓本を整理し、その會讀を隔週の研究會で實施した。その成果報告は二〇一七年度の『東方學報』に掲載する豫定である。また、當研究所と中國社會科學院考古研究所との共同編集により中國の科學出版社から刊行している『雲岡石窟』中英語版のうち第二期分（第八―第十六卷）までは二〇一五年度に出版された。新たに執筆編集する第三期（第七―二〇卷）の日本語版四卷九冊は二〇一六年六月に刊行され、中國語版は二〇一七年度に刊行の豫定である。

四月四日 雲岡石窟第十七洞  
發表者 高橋早紀子  
PD

四月一日 雲岡石窟第十七洞  
發表者 高橋早紀子  
PD

- 五月一六日 雲岡石窟第十七洞 發表者 高橋早紀子
- 五月三〇日 雲岡石窟第十七洞 發表者 高橋早紀子
- 雲岡石窟第二三四窟測繪報告 發表者 陳 豪
- 六月 六日 雲岡石窟第十七洞 發表者 高橋早紀子
- 六月二〇日 雲岡石窟第十七洞 發表者 高橋早紀子
- 七月 四日 雲岡石窟第十七洞 發表者 高橋早紀子
- 七月一八日 雲岡石窟第十七洞 發表者 高橋早紀子
- 九月一九日 毘沙門天脚下の地天・二鬼の成立と展開 發表者 高橋早紀子
- 九月二二日 漢譯『華嚴經』の原典『アヴァタンサカ・ストラ』の佛身論と宇宙論について 發表者 外村 中
- 一〇月三日 雲岡石窟第十八洞 發表者 高橋早紀子
- 一〇月一七日 雲岡石窟第十八洞 發表者 高橋早紀子
- 十一月 七日 雲岡石窟第十八洞 發表者 高橋早紀子
- 一二月 五日 雲岡石窟第十八洞 發表者 高橋早紀子
- 一二月一九日 雲岡石窟第十八洞 發表者 高橋早紀子
- 二〇一八年一月一六日 雲岡石窟第十八洞 發表者 高橋早紀子
- 一月三〇日 雲岡石窟第十八洞 發表者 高橋早紀子
- 二月 六日 雲岡石窟第十八洞 發表者 高橋早紀子
- 三月一九日 雲岡石窟の初期造像―曇曜五窟の佛龕を中心として 發表者 岡村秀典  
班長 稻葉 穰
- 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア 本研究室は、中央アジア、南アジア、西アジアのフロンティアとしての「歴史的アフガニスタン」およびその周辺において何が起きてきたのか、そこを越えて移動した人やモノはフロンティアを超えた先でいかに機能したのかを、文献資料や出土資料をもとに検討し、「前近代におけるグローバルリズム」がいかなる状態を持っていたのかを明らかにすることを目的として計畫された。本年はアフガニスタンの周辺地域における多様な文化交流に關する研究報告と並んで、九世紀に Abu Dufai によって執筆されたアラビア語の旅行記である『第二書簡』會讀を行ったが、班長の長期海外出張のため九月以降は休會とし、次年度に研究班を延長して成果のとりまとめを行う豫定である。
- 四月一四日 Abu Dufai 第二書簡會讀 發表者 大津谷馨
- 四月二八日 Abu Dufai 第二書簡會讀 發表者 大津谷馨
- 五月二六日 前イスラーム時代トハリスタンへの社會 發表者 宮本亮一
- 六月 九日 二〇一七年三月イランでの碑刻銘文調査から 發表者 井谷鋼造
- 七月一四日 ガンダーラ地方出土浮彫畫像帶の分析 發表者 内記理
- 七月二八日 一六世紀カシミールのサンスクレット文獻におけるモゲール／ムガル 發表者 小倉智史
- 東京外國語大學アジア・アフリカ言語文化研究所 毛澤東に關する人文學的研究 班長 石川禎浩
- 一年目、二年目に蓄積した成果を生かしつつ、研究目的の達成および研究成果のとりまとめに向けた活動を進めた。活動形式はこれまで同様、隔週開催の研究班例會を中心とし、まず報告者が一時間半程度の報告を行ったあと、コメントーターが三〇分程度の批評を加え、その上で全體討論を

實施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布していることもあり、活発な議論がなされたこともこれまで同様であるが、本年度は三年目ということもあり、これまでの検討・議論の成果をふまえた、より緻密な考察に基づく報告が多数なされた。また、コメントーターとして、班外部の複数の専門家を招聘して有益なコメントを得るとともに、招へい外国人學者を中心とする中國の複数の研究者からも多くの知見を得ている。それらを通じて、より高度な水準の研究成果を生み出せるよう盡力し、すでに一定の成果を挙げつつあるところである。

四月二一日 毛澤東とスポーツ (二)

發表者 高嶋 航

文

コメントーター 村上 衛

五月二二日 現代中國政治における毛澤東經路の發生(歴史決議, 八二年憲法と毛澤東思想の再定義)

發表者 田中 仁

大阪大

コメントーター 江田憲治

總合人間

五月二六日 遊撃戦争とは何か?—一九二九年中央軍事部の論争をめぐる

發表者 江田憲治

コメントーター 長堀祐造

慶應義塾大

六月 九日 毛澤東の繼續革命論再考—文化

大革命のスターリン主義的起源

發表者 谷川眞一

神戸大

コメントーター 森川裕貴

『全連邦共産黨(ボ)』歴史小教

程』と毛澤東の黨史

發表者 石川禎浩

コメントーター 瀬戸 宏

攝南大

一〇月 六日

毛澤東統治下の經濟學者—朱紹文の經濟學と新民主主義—

發表者 三田剛史

明治大

一〇月二〇日

毛澤東時代の知識分子像—楠原俊代『韋君宜研究』を中心に

發表者 瀬戸 宏

コメントーター 水羽信男

廣島大

一一月一〇日

毛澤東の傳記・物語の成立と展開—日中戦争期から建國初期を中心に

發表者 丸田孝志

廣島 大

コメントーター 森川裕貴

大躍進と日本—日本人の中國觀と毛澤東觀

發表者 村上 衛

コメントーター 谷川眞一

毛澤東と映畫

發表者 韓燕麗

關西學院大

コメントーター 緒形 康

神戸大

二〇一八年一月一九日 河上肇と大塚有章—『自叙傳』と『未完の旅路』を

中心に

發表者 李 冬木

佛教大

コメントーター 狹間直樹

京都大(名譽教授)

二月 二日

中華人民共和國初期の「記念節日資料」中の毛澤東略傳について

發表者 小野寺史郎

埼玉大

二月一六日

「ハリコの虎」から「精神原子彈」へ—毛澤東統治下の核をめぐる言説

發表者 森川裕貴

漆麟

コメントーター 漆麟

日本學術振興會

三月 二日

一九七〇年代の香港における左派思想—毛澤東派『盤古』の思想空間

發表者 中村元哉

津田塾大

コメントーター 鈴木將久

一橋大

一一月二二日

毛澤東「文藝講話」の文藝理論と文藝政策論の構築と機能

一橋大

をめぐって—「革命文學」論  
争(一九二八)から胡風批判  
(一九五五)まで

發表者 工藤貴正  
愛知縣立大  
長堀祐造  
コメンテーター

楽しんで読む戦国竹書—中国古代の基礎史料

慶應義塾大  
班長 浅原達郎

學生班員を對象としたこれまでの講義風の形式はついに成り立たなくなつた。みなめでたく社會に巣立つていったため、よろこばしいことであるが、研究班としては、方針を變更せざるをえない。まず、シニアの公式班員による會合を月に一度程度開くことにする。また、中心課題の「楽しんで読む戦国竹書」については、班長ひとり、これまで通り週に一度を目安に進行させる。受講者のいない講義のようなことになるが、記録を残すために、録畫をとるのもこれまで通りなので、やっていることはそれほど變わらない。シニア班員の會合では、ひとり研究會の動畫を流しながら、自由に議論してもらう。毎回の詳細については、ウェブサイト上の記録にゆずるが、『清華大學藏戦国竹簡』第三册の赤鵠之集湯之屋から始めて、第四册の筮法、別卦、算表を読み、第五册の厚文にとりかかったところである。また、『日古』第二十八號(十月六日)を發行し、上海博物館藏楚簡の慎子曰恭儉、用日についての讀書札記、清華大學藏簡の周公之琴舞にかかわる論文を掲載した。

中國在家の教理と經典

班長 船山 徹

中國の南朝佛教における在家の活動を具體的に知るため、今年は『廣弘明集』卷二八悔罪篇に關して前年度に扱えなかつた箇所と卷二二法義篇の會讀を集中的に行つた。具體的には、「沙羅齋懺文」、「無礙會捨身懺文」、「因緣無性論序」、「性法自然論」、「因緣無性論」の會讀を終えた。今後、引き續き卷二二の「齊三部一切經願文」、「周經藏願文」、およびそれ以下の會讀を進めする豫定である。

四月 七日 『廣弘明集』卷二八陳文帝「沙羅齋懺文」の譯注作成  
發表者 ウィットェルン、  
クリスティアン

四月 二二日 陳文帝「無礙會捨身懺文」の譯注作成 發表者 稲本 泰生  
六月 二日 陳眞觀「因緣無性論序」、朱世卿「性法自然論」(一)の譯注作成 發表者 船山 徹

六月 一六日 朱世卿「性法自然論」(二)の譯注作成 發表者 桐原 孝見  
六月 三〇日 朱世卿「性法自然論」(三)の譯注作成 發表者 船山 徹

七月 七日 朱世卿「性法自然論」(四)の譯注作成 發表者 船山 徹  
一〇月 六日 朱世卿「性法自然論」(五)の譯注作成 發表者 中西 久味

新潟大學

一〇月二〇日 眞觀「因緣無性論」(一)の譯注作成 發表者 中西 龍也

一月一七日 眞觀「因緣無性論」(二)の譯注作成 發表者 上島 享

二月 一日 眞觀「因緣無性論」(三)の譯注作成 發表者 ウィットェルン、  
クリスティアン

二〇一八年一月一八日 魏收「齊三部一切經願文」、王褒「周經藏願文」の譯注作成 發表者 桐原 孝見  
龍谷大學

二月 二日 隋煬帝「寶臺經藏願文」(一)の譯注作成 發表者 古勝隆一

東方文化學院京都研究所舊藏漢籍の整理と研究

班長 矢木 毅

毎週水曜日、一四時より一六時まで、分館書庫にて開催(二月以降は避寒のため、本館講義室にて開催)。前期は四月一二日より七月二六日まで(計一五回)。後期は一〇月四日より一月三一日まで(計一五回)。本年度は史部政書類と集部楚辭類・別集類、中江文庫經部の内容を検討した。毎回の検討の成果を「典據情報」としてまとめ、「全國漢籍データベース」にリンクさせた形でウェブ上に公開している。なお、關連する成果として『排印本十選』と題する圖録(センター資料



叢刊第二十三冊)を東アジア人情報學研究センターより刊行した。

四月二二日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類法令之屬

發表者 高井たかね

四月一九日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類法令之屬

發表者 永田知之

四月二六日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類法令之屬

發表者 永田知之

五月一〇日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類考工之屬

發表者 クリステイアン・ウイッテルン

五月一七日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類考工之屬

發表者 クリステイアン・ウイッテルン

史部政書類法令之屬

發表者 古勝隆一

五月二四日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類考工之屬

五月三二日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類考工之屬

發表者 古勝隆一

史部政書類科擧之屬

發表者 矢木 毅

六月 七日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類科擧之屬

發表者 矢木 毅

六月一四日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類科擧之屬

發表者 藤井律之

六月二二日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

史部政書類科擧之屬

發表者 藤井律之

集部楚辭類

發表者 クリステイアン・ウイッテルン

六月二八日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

集部楚辭類

發表者 クリステイアン・ウイッテルン

七月 五日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

集部別集類

集部楚辭類

發表者 クリステイアン・ウイッテルン

集部楚辭類

發表者 古勝隆一

七月二二日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

集部楚辭類

發表者 古勝隆一

七月一九日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

集部別集類

發表者 高井たかね

七月二六日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

集部別集類

發表者 永田知之

一〇月 四日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

集部別集類

發表者 古松崇志

一〇月一八日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

集部別集類

發表者 藤井律之

一〇月二五日 東方文化學院京都研究所漢籍目録

集部別集類

發表者 藤井律之

- 一月一日 東方文化學院京都研究所漢籍目錄  
 集部別集類 發表者 宮宅 潔
- 一月二五日 東方文化學院京都研究所漢籍目錄  
 集部別集類 發表者 目黒杏子
- 一月二二日 東方文化學院京都研究所漢籍目錄  
 集部別集類 發表者 目黒杏子  
 集部別集類 發表者 矢木 毅  
 東方文化學院京都研究所漢籍目錄  
 集部別集類 發表者 矢木 毅
- 一月二九日 東方文化學院京都研究所漢籍目錄  
 集部別集類 發表者 矢木 毅
- 二月六日 中江文庫經部  
 經注疏合刻類、易類 發表者 矢木 毅
- 二月三日 中江文庫經部  
 書類 發表者 目黒杏子
- 二月二〇日 中江文庫經部  
 書類 發表者 宮宅 潔
- 二月二七日 中江文庫經部  
 書類 發表者 古松崇志
- 二〇一八年一月一七日 中江文庫經部  
 書類 發表者 藤井律之  
 書類 發表者 永田知之
- 一月二四日 中江文庫經部  
 書類 發表者 永田知之  
 書類 發表者 高井たかね
- 一月三二日 中江文庫經部
- 詩類、禮類 發表者 高井たかね  
 詩類 發表者 古勝隆一
- 漢籍リポジトリの基礎的研究  
 班長 ウィットレルン・クリスティアン  
 今年度は昨年度の逸文に引き続き引用文の抽出の方法を検討し、実験として論語から他の漢籍に見られる影響をヒートマップな形で視覚化した。課題の方法論をさらに深めるために海外の動向と最新の論文を検討し、その結果として漢籍リポジトリへの新たに「Topic modeling」の適用の実験をはじめました。この問題は来年度以降引き続き検討する必要があります。
- 四月二五日 昨年度のまとめと今後の課題  
 五月 九日 T L S と漢籍リポジトリ、初期検討
- 六月一三日 漢籍リポジトリ内の引用文の抽出方法について：cfind  
 六月二七日 引用文抽出実験、論語引用のヒートマップ
- 一〇月一〇日 人情報學の國際的動向  
 一〇月二四日 論文検討：「The Distant Reading of Religious Texts: A "Big Data" Approach to Mind-Body Concepts in Early China」  
 十一月四日 論文検討：「Topic Modeling the Han dian Ancient Classics (漢典古籍)」  
 論文検討：Unsupervised identification of text reuse in early Chinese literature
- 二月二二日 漢籍に適用する「Topic Modeling」の問題点：モデルの比較  
 二〇一八年一月 九日 漢籍検討用コーパス：資治通鑑 唐記  
 資治通鑑 唐記  
 一月二三日 資治通鑑 唐記 モデルिंग評價  
 秦代出土文字史料の研究 班長 宮宅 潔  
 里耶秦簡・嶽麓簡の概要を紹介し、その内容や研究状況について意見を交換したうえで、項目七に示したように會讀を進めた。會讀により作成された譯注（嶽麓書院所藏簡《秦律令（壹）》譯注稿 その一）は、東方學報九二冊に掲載予定である。これと平行して、研究班の活動内容を紹介するHPを作成し、そこに里耶秦簡に関する札記を公開した（http://www.shindai.ziribun.kyoto-u.ac.jp/index.html）。
- 四月 七日 嶽麓簡會讀五三一五九 發表者 伊藤 瞳  
 四月一四日 嶽麓簡會讀五三一五九 發表者 伊藤 瞳  
 四月二二日 嶽麓簡會讀五三一五九 發表者 伊藤 瞳  
 四月二八日 嶽麓簡會讀六〇一六九 發表者 安永知見  
 五月二二日 嶽麓簡會讀六〇一六九 發表者 安永知見

- 五月一九日 嶽麓簡會讀七〇一七九 發表者 宮宅 潔
- 五月二六日 嶽麓簡會讀七〇一七九 發表者 宮宅 潔
- 六月二日 嶽麓簡會讀八〇一九〇 發表者 佐藤達郎
- 六月九日 嶽麓簡會讀八〇一九〇 關西學院大學 發表者 佐藤達郎
- 六月一六日 嶽麓簡會讀九一一〇〇 發表者 鷹取祐司
- 六月二三日 嶽麓簡會讀九一一〇〇 立命館大學 發表者 鷹取祐司
- 六月三〇日 嶽麓簡會讀一〇一一〇五 發表者 角谷常子
- 七月七日 嶽麓簡會讀一〇一一〇五 奈良大學 發表者 角谷常子
- 七月二一日 嶽麓簡會讀⑧七〇三⑧七三 六 發表者 藤井律之
- 七月二八日 嶽麓簡會讀⑧七〇三⑧七三 六 發表者 藤井律之
- 九月八日 嶽麓簡會讀⑧七〇三⑧七三 六 發表者 藤井律之
- 九月一五日 嶽麓簡會讀一〇六一一五 發表者 藤井律之
- 五月一九日 嶽麓簡會讀七〇一七九 發表者 宮宅 潔
- 五月二六日 嶽麓簡會讀七〇一七九 發表者 宮宅 潔
- 六月二日 嶽麓簡會讀八〇一九〇 發表者 佐藤達郎
- 六月九日 嶽麓簡會讀八〇一九〇 關西學院大學 發表者 佐藤達郎
- 六月一六日 嶽麓簡會讀九一一〇〇 發表者 鷹取祐司
- 六月二三日 嶽麓簡會讀九一一〇〇 立命館大學 發表者 鷹取祐司
- 六月三〇日 嶽麓簡會讀一〇一一〇五 發表者 角谷常子
- 七月七日 嶽麓簡會讀一〇一一〇五 奈良大學 發表者 角谷常子
- 七月二一日 嶽麓簡會讀⑧七〇三⑧七三 六 發表者 藤井律之
- 七月二八日 嶽麓簡會讀⑧七〇三⑧七三 六 發表者 藤井律之
- 九月八日 嶽麓簡會讀⑧七〇三⑧七三 六 發表者 藤井律之
- 九月一五日 嶽麓簡會讀一〇六一一五 發表者 藤井律之
- 九月二二日 里耶秦簡會讀⑧七三七⑧七五 四 發表者 伊藤 瞳
- 一〇月六日 嶽麓簡會讀一〇六一一五 發表者 畑野吉則
- 一〇月二三日 里耶秦簡會讀⑧七六〇⑧七六 七 發表者 安永知晃
- 一〇月二〇日 嶽麓簡會讀一〇六一一五 發表者 安永知晃
- 一〇月二七日 里耶秦簡會讀⑧七六〇⑧七六 七 發表者 畑野吉則
- 一一月二七日 嶽麓簡會讀一〇六一一五 發表者 安永知晃
- 一一月二四日 里耶秦簡會讀⑧七五五⑧七五 九 發表者 宗周太郎
- 一一月二日 嶽麓簡會讀一〇六一一五 發表者 畑野吉則
- 一一月八日 里耶秦簡會讀⑧七五五⑧七五 九 發表者 宗周太郎
- 一一月二五日 嶽麓簡會讀一二四一一一 發表者 畑野吉則
- 一一月二二日 里耶秦簡會讀⑧七五五⑧七五 九 發表者 畑野吉則
- 二〇一八年一月二二日 嶽麓簡會讀一二四一一 發表者 畑野吉則
- 一月一九日 里耶秦簡會讀⑧七六八⑧七七一 發表者 齋藤 賢
- 一月二六日 嶽麓簡會讀一三二一四一 發表者 宮宅 潔
- 二月二日 里耶秦簡會讀⑧七六八⑧七七一 發表者 古勝隆一
- 二月九日 嶽麓簡會讀一三二一四一 發表者 古勝隆一
- 二月一六日 里耶秦簡會讀⑧七七二⑧七九〇 發表者 宮宅 潔
- 二月二三日 嶽麓簡會讀一三二一四一 發表者 宮宅 潔
- 三月二日 里耶秦簡會讀⑧七七二⑧七九〇 發表者 宮宅 潔
- 三月九日 嶽麓簡會讀一三二一四一 發表者 宮宅 潔
- 三月一六日 里耶秦簡會讀⑧七九一⑧八一六 發表者 宮宅 潔
- 龍門北朝窟の造像と造像記 班長 稻本泰生  
 「龍門五十品」として中田勇次郎「龍門造像記」(中央公論社)に掲載される造像記の文面・内容等に順次検討を加え、古陽洞所在分を終了した。ついで同書未載の北魏造像記の事例を「北京圖書館藏 龍門石窟造像題記拓本全編」(廣西師範大學出版社)の掲載順に取り上げ、對應する造像とともに検討を進めている。
- 四月一日 研究班開始にあたって 尹愛姜等造像記、高思朔等造像記、王史平吳等造像記の検討

- 四月二十五日 馬慶安造像記など三件 發表者 稻本泰生  
 五月九日 劉洛眞兄弟造像記など三件 發表者 稻本泰生  
 五月二十三日 祀允造像記など三件 發表者 田中健一  
 六月一三 比丘尼法文法隆等造像記など三件 發表者 田中健一  
 六月二十七日 安定王造像記(二件) 發表者 田中健一  
 七月一日 杜遷等廿三人造像記など四件 發表者 稻本泰生  
 七月二十五日 比丘慧榮/惠榮造像記(三件) 發表者 稻本泰生  
 一〇月一〇日 比丘法勝造像記など三件 發表者 向井佑介  
 一〇月二十四日 王光造像記など四件 發表者 大西磨希子  
 十一月四日 邑師僧智元等造像記など三件 發表者 向井佑介  
 十一月二十八日 高慧造像記など五件 發表者 大西磨希子  
 十二月二日 敦煌造像記など六件 發表者 向井佑介  
 二〇一八年一月九日 法轉造像記など五件 發表者 桑原正明  
 一月二十三日 張英周妻蘇文好造像記など四件 發表者 桑原正明

二月一三 道守造像記など五件

發表者 稻本泰生

人文學研究部

現代/世界とは何か?—人文學の視點から

班長 岡田暁生、小關 隆

本研究班の最終年度となる二〇一七年度には、通常の例會を六回開催したのに加え、人文研アカデミーの一環として、広く一般に公開されるかたちの特別例會Ⅱ合評會を一回、さらに、フランスから研究者を迎えて特別例會を一回開催した。例會の開催はひとまず一〇月で終了、後期からは研究成果のとりまとめ・公刊に向けた打ち合わせに力点を置き、二〇一八年一月までに六回(八月八日、一〇月一〇日、十一月一日、十一月二二日、十二月二日、一月九日)の編集會議を開催した。その結果、研究班の成果を二冊の書物(山室信一編「人文學宣言」山室・岡田暁生・小關隆・藤原辰史編「現代・世界と人文學」、いずれも假題)として刊行する方針となり、現在、出版社との交渉や執筆者との意見交換を進めている。二〇一八年度中に二つの成果の出版に漕ぎつけることが、現時點の見通しである。

ブラフマニズムとヒンドウイズム—南アジアの社會と宗教の連続性と非連続性 班長 藤井正人  
 本年度の研究實施狀況【目】本研究では三年の研究期間を半年ごとの全六クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複数回の定例研究會とクール最後のシンポジウムを開催している。今年

度前半の第三クールでは、古代および中世インドの神話と説話について、ヴェーダ、初期佛典、大乘經典、古典説話、ヒンドウー教からの報告が行われ、一〇月に「古代・中世インドの神話、説話、表象」をテーマに第三回シンポジウムを人文科學研究所で開催した。後半の第四クールでは、ブラフマニズムとヒンドウイズムにおける儀禮、制度、社會生活を取り上げ、定例研究會で報告を行うとともに、年度末に「古代インドにおける儀禮、制度、社會」(假)をテーマに第三回シンポジウムを東京大學で開催する豫定である。

アジアにおける人種主義の連鎖と轉換

班長 竹澤泰子

平成二九年度で二年目を迎えた本研究會は、科學研究費基盤(S)と連動させながら、アジアにおける人種主義に主眼を置いた共同研究を進めている。本年度は、環太平洋における移民・難民をテーマとした共同研究、ヒトゲノム研究からわかるヒトの進化の歴史と集團差にかんする文理融合の共同研究などを實施した。さらに昨年度に刊行されたシリーズ「人種神話を解體する」(全三巻)のうちの第一巻・第二巻それぞれの出版記念セミナー(人文研アカデミー)を六・七月および一〇・十一月に新丸の内ビル内の関連施設で開催し、東京圏においても研究の社會還元を努めた。また昨年度に締結したフランス國立社會科學高等研究院のTEPESISと人文研の學術交流協定に基づき、フランス人研究者五名(うち四名がTEPESIS)を迎え、日本人研究者と「人種概念の連鎖

と「變容」をテーマとして合宿形式の共同研究を行った。また本研究會のメンバーと海外三方國の研究者とともに、アメリカ人類學會の部會において研究発表を行い、年度内の三月には、沖繩において、日本學術會議と共催で「DNAからみる集團と個」と題したサイエンスカフェを開催、また研究會メンバーの五名がパリに向向き、フランス國立社會科學高等研究院にて研究報告を行った。三名がアメリカ人研究者三名とともにアジア系アメリカ人研究學會において部會において発表したりする豫定である。

生と創造の探究―環世界の人文學

班長 藤原辰史・石井美保

二〇一七年三月に終了した「環世界の人文學―生きもの、なりわい、わざ」を引き繼ぐ本研究班の初年度である本年度は、各職員による個別課題についての研究報告を中心に例會を開催するとともに、ゲスト・スピーカーを招いた研究會や國際シンポジウムを開催し、人間と非人間的存在の關係、ならびに環世界の形成と變容に關する活發な議論を行った。個別課題研究では、それぞれの事例に基づき、病原菌や動植物をはじめとする他の生物との關係性の中で人間にとつての環世界がいかに生成し、變容していくのかという問題についての議論と考察を行った。また、文學・哲學・科學技術社會論の視座から、環世界概念の可能性と限界が考察された。六月には田中（祐）が國際ワークショップ「原爆と醫學史」を企画し、科學技術と暴力、歴史と記憶という問題系をめぐって

學際的な議論が交わされた。また、一月には建築家の能作文徳氏をゲスト・スピーカーに迎え、建築や住環境という視座から環世界論を問ひ直す議論が展開された。

ウメサオ・スタディーズの射程 班長 田中雅一

本研究會は以下の三つの活動からなる。二と三は「みやこの學術資源プロジェクト」と連携して行っている。一）研究発表・梅棹の關心や業績は多岐にわたる。これらを整理し、主要なテキスト読み、それに基づいて研究會を行う。二）紙媒體資料のデジタル化・具體的には、人文科學研究所に残されている社會人類學講座の梅棹關係の書類を項目ごと分類し、デジタル化し、整理している。デジタル化された文書のリストを作成、詳細な説明をつけた資料も作成中である（今年度終了豫定）。三）テープ資料のデジタル化・京大在籍中の梅棹忠夫の活動は多岐にわたるが、そのひとつが近衛ロンドという研究會・自主講義であった。當時の會合を記録していたオープンリールテープを、昨年も引き續き外注してデジタル化している。

「ヴァードウーラ・シユラウタストラ」研究

班長 井狩彌介、藤井正人

ヴァードウーラ・シユラウタストラの第八章（アグニチャヤナ祭）を研究対象にして、井狩（班長）が校訂テキストと譯注を作成し、研究會で報告するとともに、参加者全員によって検討を行った。昨年度と同様に、テキストの會讀を中心に、補説的な研究を混ぜながら共同研究を進めた。今年度、これまでに検討したテキストの主題は、

ウカー土器の點火、一年間の潔齋、ガールハパテイヤ煉瓦壇の構築、アグニ火壇の設置準備などである。

近代京都と文化

班長 高木博志

近代京都の文化に關して、特に民衆の生活・花街の性・差別の問題といった周縁性など「影」の部分も含めた重層的な像を導き出すべく、研究會を積み重ねた。全七回の研究會では、近代の京都をめぐって、花街の文化や性・差別の問題、美術・宗教・産業など多様な問題について議論した。九月二四日には向日市において巡見をおこない、同市が進める「向日市歴史的風致維持向上計畫（歴まち計畫）」の實態について學ぶとともに、研究會を行った。その結果、同様の試みを進めている他の自治體などと比較すると、同市が學問的にも高い水準で積極的に行政に働きかけを行っている自治體であることが確認された。また、一月一〇日には京都文化博物館別館二階講義室にて、同館の展示ともリンクした研究會を行い、近代京都における繪畫と社會に關する理解を深めた。

個人研究

東方學研究部

先秦時代の金文 淺原 達郎  
 川西走廊の漢藏諸語の記述研究 池田 巧  
 中國共產黨史の研究 石川 禎浩  
 イスラーム東漸史の研究 稲葉 穰  
 清代の文化と社會 井波 陵一

近代中國の財政と社會 岩井 茂樹  
 佛教研究知識ベース—禪佛教を例として

WITTEN, Christian

古代中國の考古學研究 岡村 秀典

中國科學の思想的考察 武田 時昌

インド・中國における佛教の學術と實踐 船山 徹

高麗官僚制度研究 矢木 毅

文字コード理論 安岡 孝一

東アジア佛教美術史の研究 稻本 泰生

中國注釋學史研究 古勝 隆一

中國中世近世の文學理論 永田 知之

中國イスラームの研究 中西 龍也

一〇—一三世紀ユーラシア東方における王朝間關係の研究 古松 崇志

秦漢時代の制度史 宮宅 潔

歴史考古學的方法にもとづく中國文化研究 向井 佑介

近代中國におけるの社會經濟制度の變容 村上 衛

中國家具とその使用に關する研究 高井たかね

中國古代中世の官制史 藤井 律之

東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究 宮 紀子

秦漢期國家儀禮の研究 目黒 杏子

文字定義情報に基づく文書表現系に關する研究 守岡 知彦

中華民國時期における知識人と政治 森川 裕貴

人文學研究部

19世紀の日本社會 岩城 卓二

19世紀および20世紀ヨーロッパの音楽史 岡田 曉生

日本の工業化とアジア商人のネットワーク 籠谷 直人

イギリス・アイルランド近現代史 小關 隆

技術・自然・(ポスト)現代性の思想—哲學的探求 佐藤 淳二

近代天皇制の文化史的研究 高木 博志

人種・エスニシティ論 竹澤 泰子

南アジア、日本、ヨーロッパにおける暴力、セクシュアリティ、宗教 田中 雅一

ヴェーダ文獻の生成と傳承の研究 藤井 正人

アフリカと南アジアにおける宗教・環境・身體性に關する人類學的研究 石井 美保

近代トランススコカサス(特にグルジア)における匪賊 伊藤 順二

近世ヨーロッパの歴史敘述と政治思想 王寺 賢太

東アジアにおける生命科學と「自然」 瀬戸口明久

近代日本美術と西洋 高階繪里加

精神分析的知を思想的に位置づける試み 立木 康介

農業史の再構築 藤原 辰史

フランス象徴主義と文學的モデルニテ 森本 淳生

島崎藤村その他の近代文學者の作品研究—リア

リズム、メディア、帝國 HOJICA, Irina  
 皇室の土地所有に關する歴史的研究 池田さなえ

19世紀および20世紀の演劇・映画史 小川佐和子

近代日本民俗誌システムの研究 菊地 暁

近代西洋醫學發展史研究および身體論 田中祐理子

在米日墨移民史の研究 徳永 悠

啓蒙と文學—アドルノ美學における「人間性」の位置づけ— 藤井 俊之

事業概況

・Kyoto Lectures 2017

二〇一七年四月二四日

於 京都大學人文科學研究所本館セミナー室一  
 Japan and the United States Observations from  
 Immigration Studies

講演者: Gary Y. Okhiro (ロコロンビア大學教授)

・ジャズ・コンサート(人文研アカデミー)

二〇一七年五月一三日

於 京都府立府民ホール アルティ  
 すじいジャズには理由(わけ)がある

出演: フィリップ・ストレンジ

トリオ フィリップ・ストレンジ(P) /

齋藤 洋平(Ds) / 荒玉哲郎(B)

話者: 岡田 曉生



・連続セミナー(人文研アカデミー)

二〇一七年四月二十七日、五月十九日、六月一〇日、  
三〇日

於 京都大学人文研本館四階大會議室

二〇一七年の論點―沖縄、子どもの貧困、地方消滅、南スーダン―

四月二十七日(木) 「沖縄の歴史のゆくえ―自立と連携―」

講演者：森 宣雄

コメント：駒込 武

司會：小關 隆

五月十九日(金) 「子どもの貧困をどう捉えるか」

講演者：阿部 彩

コメント：藤原 辰史

司會：田中祐理子

六月一〇日(土) 「始まった田園回帰―農山村再生に向けて―」

講演者：小田切徳美

コメント：岩城 卓二

司會：岡田 直紀

六月三〇日(金) 「平和構築とはなにかを考へる―自衛隊の國連PKO派遣と南スーダン―」

講演者：栗本 英世

コメント：石井 美保

司會：小山 哲

報 載  
・Kyoto Lectures 2017

二〇一七年五月一六日

於 京都大学人文科学研究所

本館一階セミナー室一

Magic and the conversion of the lords of Kyushu (1560-1580)

講演者：Alan Strathern

(オックスフォード大学准教授)

・Romania Meets Japan in 20<sup>th</sup> Century Literature, Media and Culture

二〇一七年五月二五日

於 Christian University, Room 121

Translating Japanese literature in communist Romania: the case of Shimazaki Toso's The Broken Commandment

講演者：Irina Holca

・Kyoto Lectures 2017

二〇一七年五月三〇日

於 京都大学人文科学研究所

本館一階セミナー室一

Sea Theologies: Elements for a Conceptualization of Maritime Religiosity in Japan

講演者：Fabio Rambelli

(カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授)

・京都アスニー・ゴールデン・エイジ・アカデミー

二〇一七年六月二日、九日、一六日、二三日、三〇日

於 京都市障害学習総合センター 四階ホール

「顔と写真」

講演者：澤田 知子(写真家)

司會：小柏 裕俊(甲南女子大学非常勤講師)

「顔と写真」

「顔と写真」

六月九日(金) 「京都の鍼立と鍼師―鍼治専門

「信長・秀吉・家康を診た醫師のカルテ―曲直瀬玄朔の生涯」

講演者：長野 仁

六月一六日(金) 「地震・黒船・明治維新―幕末の江戸醫學館」

講演者：多田 伊織

六月二三日(金) 「復古と革新のあいだ―近代京都の醫史學」

講演者：武田 時昌

六月三〇日(金) 「トークセッション(人文研アカデミー)」

二〇一七年六月三日

於 京都大学人文科学研究所共通一講義室

「イメーヂ化する身体―顔のマニピュレーション」

講演者：馬場 伸彦

「コスメの國の私遊び」

講演者：米澤 泉

「顔と写真」

講演者：澤田 知子(写真家)

司會：小柏 裕俊(甲南女子大学非常勤講師)

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

「顔と写真」

・国際セミナー

二〇一七年六月四日(日)

於 京都大学人文科学研究所本館四階大會議室  
Pain in My Heart: Living with the Legacies of  
Everyday Violence in the Contemporary  
South/ by Prof. Nan Elizabeth Woodruff

講演者: Ran Zwigenberg  
(ペンシルヴァニア州立大学助教授)

Nan Elizabeth Woodruff  
(ペンシルヴァニア州立大学助教授)

コメンテーター: 永井真理子  
(テンプル大学ジャパンキャンパス  
日本文学・文藝創作  
上級准教授)

・国際セミナー

二〇一七年六月七日

於 京都大学人文科学研究所  
本館一階セミナー室一  
Plants, Pathogens, and Empire: Race Across the  
Pacific in the Early 20<sup>th</sup> Century

講演者: ジェニー・シノヅカ  
(ワシントン大学アメリカン・  
エスニック・スタディーズ学部  
助教授代理)

コメンテーター: 瀬戸口明久  
・国際ワークショップ

二〇一七年六月一九日(月)

於 京都大学人文科学研究所  
本館一階セミナー室一

原爆と醫學史 The A-bomb and Medical History

講演者: Ran Zwigenberg  
(ペンシルヴァニア州立大学)  
講演者: 中尾麻伊香 (立命館大学)  
講演者: Shi Lin Lou (慶應大学)  
講演者: 田中祐理子

・Kyoto Lectures 2017  
二〇一七年六月二二日(水)

於 京都大学人文科学研究所  
本館一階セミナー室一  
Citadels of Modernity: Japan's Castles in War and  
Peace  
講演者: Ran Zwigenberg  
(ペンシルヴァニア州立大学助教授)

・人文研アカデミー二〇一七

二〇一七年六月二二日、二九日、七月六日、一三  
日、二七日

於 京都大学東京オフィス大會議室A/B  
「人種神話を解體する―血―の政治学を超えて」  
出版記念連続セミナー@東京  
六月二二日(木) 〈第一回 表象と呼稱をめぐ  
る問題〉

「血」の政治学をこえて  
講演者: 竹澤 泰子  
呼稱をめぐる議論と表象略  
史 講演者: 岡村 兵衛

〔「ハーフ」表象の歴史  
研究者〕

六月二九日(木)

〈第二回 映畫表象にみる人  
種・ジェンダー・セクシュ

アリティ)

一九三〇年代の「混血児」  
表象―『港の日本娘』から  
ゆきさん』を題材に  
講演者: 高 美智

(法政大学社会学部准教授)  
冲繩という風景に抗して―  
「BLUES HARP」を題材に  
講演者: 菅野優香

グローバル・スタディーズ  
(同志社大学大学院  
研究科准教授)

七月 六日(木)

〈第三回 「混血」から歴史  
を読み直す〉  
植民地統治下の白人性と  
「混血」―英領インドの事  
例から  
講演者: 水谷 智

(同志社大学  
グローバル地域文  
化学部教授)

アメリカのスポーツと「混  
血」  
講演者: 川島 浩平

七月 二三日(木)

〈第四回 自分らしい生き方  
を求めて〉  
「ハーフ」の若者たちの自己  
像―日本とパキスタンの國

際結婚の子ごもたち

講演者：工藤 正子

(京都女子大學)

現代社會學部教授)

在日「ダブル」の歴史観—

加害被害の二元論の超克

講演者：李 洪章

(神戸學院大學)

現代社會學部教員)

七月二十七日(木) 合評會

講演者：岩淵 功一

(モナシユ大學教授)

成田 龍一

(日本女子大學)

人間社會學部教授)

川島 浩平

(武蔵大學)

人文學部教授)

竹澤泰子 ほか

・京都大學國際シンポジウム

二〇一七年六月二十五日、二十六日、二十七日

於 ノートル・ダム大學ロンドン・キャンパス

The History and Culture of Iran and Central Asia

in the First Millennium CE: From the

Pre-Islamic to the Islamic Era

講演者：Deborah Tor、Thomas G. Burman

稲葉 穰、nicolas Sims-Williams

Michael Shenkar、Pavel Lurje

Gabriele ven den Berg、Louise

Marlow、Daniel Sheffield、Fran-

cois de Blois、Robert Gleave、Flor-

ian Schwarz、吉田豊、Dinoza Du-

turaeva、影山悦子、Judith Lerner

Arezou Azad、Deborah Kimburg-

Salter、Matteo Compareti、George

Malagaris、Luke Treadwell

Michael Bates、Hugh Kennedy

Frantz Grenet、Rocco Rante

Etiemme de la Vaisi ère

・夏期公開講座(人文研アカデミー)

二〇一七年七月八日

名作再讀—いま讀んだらこんな面白い

於 京都大學人文科學研究所本館共通一講義室

虚構原則への誘い 寺山修司『あゝ、荒野』を讀

む

講師：藤井 俊之

歌舞伎役者一代記 初世 中村仲藏『月雪花寝物

語』を讀む

講師：永田 知之

古都奈良・京都の發見 岡倉天心『日本美術史』

を讀む

講師：高木 博志

・アンナ・ザイデル記念講演

二〇一七年七月一二日

於 京都大學人文科學研究所

東アジア人情報學研究センター

Jien's Poetry, Dogmatics and Politics: The

Naniwa-hyakusha and the Gukan-sho

發表者：Jean-Noël Robert

(コレージュ・ノ・フランス教授)

・Kyoto Lectures 2017

二〇一七年七月一九日(水)

於 京都大學人文科學研究所

本館一階セミナー室一

Jesuit Buildings in Early Modern Japanese Art: A

Comparative Analysis

講演者：Bebio Vieira Amaro

(東京大學工學博士)

・人文研アカデミー

二〇一七年七月二九日(土)

於 京都大學人文科學研究所

本館一階セミナー室一

藤井俊之『啓蒙と神話』上尾眞道『ラカン、眞

理のパトス』公開合評會

アドルノ／ラカン—感性と理性の狭間で—人間

は、眞理に耐えられるのか—

講演者：藤井 俊之

『啓蒙と神話—アドルノと人間の形象』をめ

ぐって

コメント：岡田 暁生

コメント：佐藤 淳二

講演者：上尾 眞道

(立命館大學衣笠総合研究機構)

『ラカン、眞理のパトス—一九六〇年代フランス

思想と精神分析』をめぐって

コメント：立木 康介

コメント：小泉義之

(立命館大學大学院)

先端総合學術研究科教授)

司會・王寺 賢太

・京都大學人文研 高校生のための夏期セミナー

二〇一七年八月八日

於 京都大學人文科學研究所分館大會議室

―東方學研究への招待― 第五回「人文研東方部

へようこそ」

いろいろな漢文を讀んでみよう

講話者・古勝 隆一

明清の暮らしをかいま見て―女性研究者の問わず

語り

講話者・高井たかね

・東アジア人文情報學研究センター講習會

二〇一七年度漢籍擔當職員講習會(初級)

第一日(九月二十五日)

開講挨拶・オリエンテーション

岡田 秀典

漢籍について 永田 知之

カードの取り方―漢籍整理の實踐

古松 崇志

第二日(九月二十六日)

工具書について 高井たかね

漢籍関連サイトの利用 Wintern, Christian

講習を始めるにあたって 梶浦 晋

漢籍目録カード作成講習

第三日(九月二十七日)

目録検索とデータベース検索安岡 孝一

漢籍データベース実習(一)

第四日(九月二十八日)

和刻本について

宇佐美文理(大學院文學研究科教授)

漢籍データベース実習(二)

第五日(九月二十九日)

朝鮮本について

實習解説

情報交換

終了挨拶

二〇一七年度漢籍擔當職員講習會(中級)

第一日(十一月六日)

開講挨拶・オリエンテーション

經部について

岡村 秀典

叢書部について 古勝 隆一

叢書と漢籍データベース 藤井 律之

第二日(十一月七日)

史部について 安岡 孝一

漢籍データベース実習(一) 宮宅 潔

第三日(十一月八日)

子部について 永田 知之

漢籍データベース実習(二)

第四日(十一月九日)

集部について 道坂 昭廣

(大學院人間・環境學研究科教授)

漢籍データベース実習(三)

第五日(十一月十日)

漢籍と情報処理 Wintern, Christian

實習解説

情報交換

終了挨拶

・Kyoto Lectures 2017

二〇一七年九月二十六日(水)

於 フランス國立極東學院京都センター

On French and Japanese Anthropologies: Andre

Leroi-Gourhan in Kyoto (1937-1939)

講演者: Damien Kunik (シユネーヴ大學)

・ジゼル・サビロ講演會

二〇一七年九月二十七日(水)

於 京都大學人文科學研究所

本館一階セミナー室一

ドイツ占領下におけるフランスの文學場

講演者: Gisèle Sapin (フランス國立社會科學

高等研究院 (EHESS) 研究主任)

・シンポジウム

京都大學人文科學研究所共同研究 「ブラフマニ

ズムとヒンドウイズム―南アジアの社會と宗教の

連續性と非連續性」第三回シンポジウム

二〇一七年一〇月七日(土)

於 京都大學人文科學研究所

本館四階大會議室

古代・中世インドの神話、説話、表象

古代インドの捨て子傳説をめぐって

ヴェーダ文獻における河川について 堂山英次郎

神話における頭部の切斷と再生について 山田 智輝

伊澤 敦子

パトリ聖典におけるプラフマー神の諸相

名和 隆乾

降魔成道と阿闍佛

佐藤 直實

説話世界の轉輪聖王―ブリハット・カタ―諸傳本の比較を通して

柴崎 麻穂

中世マハーラーシユトラのバクテイ教團における出家者の實像

井田 克征

・人文研アカデミー二〇一七

二〇一七年一〇月一四日(土)、一二月一八日(土)、一二月二三日(土)

於 朝日カルチャーセンター朝日JTB・交流文化塾 京都 京都朝日會館八階

人文學への誘い 京都大學人文科學研究所協力講座

一〇月一四日(土)

卑彌呼の鏡を読む 三角縁神獸鏡を創作した陳氏の心と技

講師・岡村 秀典

一二月一八日(土)

ロシアの革命とコスミズム バクーの石油とカフカスの瞑想から

講師・伊藤 順二

一二月二三日(土)

オペレッタでわかる世界史 大衆喜劇における風刺表現の變遷

彙報

講師・小川佐和子

・Kyoto Lectures 2017

二〇一七年一〇月二〇日(金)

於 フランス國立極東學院京都センター

Mantras for the Masses

The Saidaiji Order and the Spread of Komyo Shingon Practices in Medieval Japan

講演者: David Quinter

・京都大學國際シンポジウム アジア傳統科學國際會議二〇一七

二〇一七年一〇月二五日(水)―二八日(土)

於 京都大學 理學研究所本館四回大會議室 人文科學研究所本館四回大會議室 (一〇月二七日のみ)

天と地の科學―東と西の會合

基調講演

Christopher Cullen (Needham Research Institute/University of Cambridge)

Krishnamurti Ramasubramanian (IIT Bombay)

・アンステイチュ・フランセ關西 創立九〇周年記念

二〇一七年一〇月二八日(土)

於 アンステイチュ・フランセ關西―

シンポジウム 京(みやこ)にフランスあり―

アンステイチュ・フランセ關西の歴史と記憶―

第一部

イントロダクションアンステイチュの創設者、

クロードルと稲畑

立木 康介

記録された記憶―關西日佛學館という知的風景を考える

フランス國立極東學院教授 東京支部長、

日佛學館の九〇年―學生の仲間と生活

富永 茂樹 (京都大學名譽教授)

第二部

第二次世界大戰中の關西日佛學館

ミッシェル・ワッセルマン (立命館大學特任教授)

パネル・デイスカッション

共催・京都大學人文科學研究所

・アフリカ・サブサハラ地域におけるジェンダー正義と宗教 女性器切除 (FGM) をめぐって

二〇一七年一二月八日(水)

於 京都大學稻盛財團記念館三階三二一八號室

講演者・ロガリア・ムスタファ・

アブーシヤラフ(ジョージタウン大學)

カタール・キャンパス人類學教授)

・コメンテーター・中村 香子

(京都大學大学院アジア・アフリカ地域研究研究科院生)

宮脇 幸生 (大阪府立大學 人間社會システム科學研究科教授)

司會・田中 雅一

・人文研アカデミー二〇一七

二〇一七年一月一〇日、二四日、一二月八日、二三日

於 新丸の内ビルディング一〇階

京都アカデミーフォーラム in

丸の内 大會議室

「人種神話を解體する―科学と社會の知」出版記念連続セミナー@東京

一月一〇日(金) 第一回 人種研究と日本の人文科学)

日本の考古學と人種研究

講演者・坂野 徹

(日本大學經濟學部教授)

日本近代の民衆統治と科學的人種主義

講演者・關口 寬

(四國大學經營情報學部准

教授)

一月二四日(金) 第二回 ヒトの多様性に關する最新の成果から)

人類集團遺傳學にとつての「集團」とは何か?

講演者・太田 博樹

(北里大學醫學部准教授)

「人種」優劣と植民地主義に繋がった自然人類學

講演者・瀬口 典子

(九州大學大學院比較

社會文化研究院准教授)

一二月 八日(金)

第三回 人種研究とマイノリティ)

身體の贈與と共同體の生成―インドの事例から

講演者・石井 美保

ハンセン病者のアナキズム―フィリピンでアメリカの植民地秩序を變える

講演者・日下 涉

(名古屋大學大學院

國際開發研究科准教授)

一二月二三日(金)

座談會「人類集團の分類とカテゴリーをめぐる

て」

講演者・太田博樹(北里

大學醫學部准教授)、篠

田謙一(國立科學博物館

人類研究部人類史研究グ

ループ長)、田邊明生

(東京大學大學院總合文

化研究科教授)、徳永勝

士(東京大學大學院醫學

研究科教授)、坂野徹

(日本大學經濟學部教授)、

竹澤泰子

・シンポジウム

二〇一七年一月二一日(土)

於 京都大學人文科學研究所本館四階大會議室

證言・告白・愁訴―醫療と司法における語りの現

場から―

司會・田中 雅一・澤野美智子

(立命館大學總合心理學部准教授)

發表一 「傾聴と看取りのあいだに―大阪市西成

區の單身高齢者と向きあう訪問看護師」

西 眞如(京都大學)

發表二 「ナラティブの龜裂、主體の搖れ―精神

分析を忘れないために」

立木 康介

發表三 「語りを鍛え、誘い、支援する―司法面

接の試み」

仲 眞紀子(立命館大學)

發表四 「原爆症認定訴訟における體験の記憶と

政治」

直野 章子(廣島市立大學)

コメント・高木光太郎(青山學院大學

社會情報學部教授)、田中 雅一

・人文研アカデミー二〇一七 連続レクチャー上

映會

二〇一七年一月二三日(木) 二六六日(日)

於 京都文化博物館三階フィルムシアター

ロシア革命百周年記念映畫祭―映像に刻まれたロ

シア革命―

一月二三日(木)

司會・中村 唯史(京都大學教授)

革命前後のロシア映畫、ロシア・ソ連映畫の日本

受容・京大人文研所藏山本明資料の紹介

小川佐和子

「ブラジャーミル・ヴィソツキー―歌と演劇と映畫」



楯岡 求美 (東京大学准教授)

十一月二十四日(金)

司會：大平 陽一 (天理大学教授)

巨大油田都市への視線

伊藤 順二

十一月二十五日(土)

司會：小川佐和子

映畫《十月》における映畫言語の試みについて

大平 陽一

映畫の事實：革命十周年記念の映畫

八木 君人 (早稲田大学専任講師)

十一月二十六日(日) コメンテーター：八木君人

《ロシア・アヴァンギャルド》と《社會主義リアリズム》のあいだ

司會：小川佐和子

ロシア革命と映畫

中村 唯史

マクシム・バヴロフ (ロシア国立

トレチャロフ美術館映像部門長)

・ Kyoto Lectures 2017

二〇一七年十一月二十四日(金)

於 フランス国立極東學院京都センター

Who Cooked for Consul-General Townsend

Harris?: Chinese and the Introduction of Western

Cooking to Japan

講演者：Timothy Y. Tsu (關西學院大学教授)

・ 人文研アカデミー二〇一七

二〇一八年一月二〇日(土)、二月三日(土)、三

月七日(土)

於 朝日カルチャーセンター朝日JTB・

交流文化塾 京都 京都朝日會館八階

人文學への誘い 京都大学人文科學研究所協力講

座

一月二〇日(土)

中國共產黨の成立・發展と煩悶青年

講師：森川 裕貴

二月三日(土)

富岡鐵齋が描く「國史」 嵯峨の古典文學・南朝

史跡・赤穂義士・天皇陵

講師：高木 博志

三月七日(土)

劉邦の「斬蛇劍」 漢王朝の寶劍傳説とそのゆく

え 講師：目黒 杏子

・ Kyoto Lectures 2018

二〇一八年一月二四日(水)

於 フランス国立極東學院京都支部

Tea Making and Drinking: Socio-Economic

Perspectives on late 19th and early 20th-century

Japan

講演者：Robert Halyer

(ウェイクフォレスト大学准教授)

・ 人文研アカデミー二〇一七

二〇一八年二月一日、八日、一五日、二二日

於 京都大学人文科學研究所

本館一階セミナー室一

近世の日本と中國

二月 一日(木) 〈第一回 モンゴルの海洋政

策と日本〉

二月 八日(木) 〈第二回 明の海禁政策と日

本〉

二月 一五日(木) 〈第三回 長崎貿易信牌をめ

ぐる新井白石と康熙帝〉

二月 二二日(木) 〈第四回 五爪龍と「日本國

王〉

講師：岩井 茂樹

・ Kyoto Lectures 2018

二〇一八年二月二〇日(火)

於 フランス国立極東學院京都支部

Japan of the World: Japan, Peace, and Inter-

nationalism in the wake of the First World War

講演者：Mahon Murphy

(京都大学法學研究科博士研究員)

・ 第三回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

二〇一八年三月二二日

於 一橋大学一橋講堂中會議場

中國近代の巨人とその著作

司會：矢木 毅

挨拶：岡村 秀典

講演者：村上 衛

士の「家計簿」―會國藩の著作より

講演者：森川 裕貴

毛澤東―書架として、詩人として

講演者：石川 禎浩

・ Kyoto Lectures 2018

二〇一八年三月一四日(水)

於 フランス國立極東學院京都支部

The Jesuits and Slavery in Early Modern Japan:  
The system of "permits"

講演者: Lucio de Sousa

(東京外國語大學特任准教授)

・共同研究「生と創造の探究―環世界の人文學」  
主催 映畫上映およびトークセッション

二〇一八年三月一四日(水)

於 京都大學人文科學研究所本館・

共通一講義室

「ヒーリング・フクシマ／Healing Fukushima」  
を観る

登壇者: Sulfikar Amir

(映畫「ヒーリング・フクシマ」監督)

Shilin Loh (映畫「ヒーリング・

フクシマ」脚本)

中尾麻伊香

・退職記念講演會『Take a load for free!』

二〇一八年三月二二日

於 京都大學人文科學研究所東アジア人

文情報學研究センター

講演者: 井波 陵一

・シンポジウム

二〇一八年三月二四日(土)、三月二五日(日)

於 東京大學文學部法文一號館二一五教室

第四回シンポジウム「古代・中世インドの儀禮、  
制度、社會」

主催: 京都大學人文科學研究所共同研究

「ブラフマニズムとヒンドウイズム―

南アジアの社會と宗教の連續性と非連續性」  
講演者: 高橋孝信、天野恭子、西村直子、

大島智靖、梶原三恵子、高橋健二、

沼田一郎、河崎豊、横地優子、井狩彌介

招へい研究員

。巫 仁恕 中央研究員近代史研究所研究員

一九世紀後半中國の地域的消費と社會變遷…同  
治期四川省巴縣を中心に  
(文化生成研究客員部門)

期間 二〇一七年二月一日〜二〇一七年四月三  
〇日

授 受入教員 村上准教授

。ZHANG, Qiong ウェイクフォレスト大學准教

授

明末清初の天文氣象學

(文化生成研究客員部門)

期間 二〇一七年五月一日〜二〇一七年八月  
一四日

授 受入教員 武田教授

。ZWIGENBERG, Ran ベンシルベニア州立大

學アジア研究専攻准教授

精神醫學と原爆

(文化連關研究客員部門)

期間 二〇一七年四月五日〜二〇一七年八月二  
〇日

授 受入教員 田中教授

。PFERSMANN, Otto フランス國立社會科學

高等研究院主任研究員

法學的認識論の弱さが法律體系にもたらす影  
響の比較研究

(文化生成研究客員部門)

期間 二〇一七年八月八日〜二〇一八年二月七  
日

授 受入教員 立木准教授

。金 培懿 國立臺灣師範大學文學部教授

近代日本における經學史研究の展開と中國への  
影響

(文化連關研究客員部門)

期間 二〇一七年九月一日〜二〇一八年二月二  
八日

授 受入教員 古勝准教授

。卞 東波 南京大學文學院教授

唐宋詩日本古注本研究

(文化生成研究客員部門)

期間 二〇一八年二月一日〜二〇一八年四月三  
〇日

授 受入教員 永田准教授

招へい外國人學者

。周 佳 浙江大學古籍研究所講師

宋代官衙制度研究―墓誌史料からの考察を中心  
に

期間 二〇一六年八月一日〜二〇一七年八月二  
〇日

授 受入教員 宮宅准教授

。趙 晟佑 ソウル國立大學助教授

東アジア佛教にみえる末法思想の比較研究

受入教員 宮宅准教授

期間 二〇一六年八月一日～二〇一七年八月二

日

。張 利軍 東北師範大學歴史文化學院副教授

夏商周國家構造の考古學研究

受入教員 岡村教授

期間 九月二〇日～二〇一七年九月一日

。張 忠煒 中國人民大學歴史系副教授

秦漢時代の法律認識―經學・讖緯・術數からみ

た―

受入教員 宮宅准教授

期間 二〇一六年一〇月一日～二〇一七年九月

三〇日

。都 賢喆 延世大學校文科大學史學科教授

高麗末における明・日本との詩文交流の意義

受入教員 矢木教授

期間 二〇一七年三月一六日～二〇一八年二月

二八日

。蔡 丹君 中國人民大學文學院古代文學教研室

講師

『陶淵明集』の日本における抄刻と流傳

受入教員 永田准教授

期間 二〇一七年四月二六日～二〇一七年六月

一八日

。VERDON, Noemie ナーランダー大學講師

中世北インドの宗教・文化史、特に一―世紀

の著作家

受入教員 稲葉教授

期間 二〇一七年七月一〇日～二〇一七年七月

二二日

。許 文堂 中央研究院近代史研究所副研究員

吉田書簡からみた中華民国と日本の斷交危機

期間 二〇一七年七月一八日～二〇一七年八月

一八日

。彭 劍 華中師範大學中國近代史研究所副教授

清末制憲問題の研究

受入教員 石川教授

期間 二〇一七年八月三一日～二〇一八年八月

三〇日

。李 琬美 弘益大學校師範大學教育學科教授

日本近代進歩主義教育

受入教員 藤原准教授

期間 二〇一七年九月四日～二〇一八年三月三

一日

。朱 騰 中國人民大學法學院副教授

出土文獻と秦漢時代の制度史

期間 二〇一七年九月一五日～二〇一八年九月

一四日

。楊 孝鴻 上海財經大學人文學院副教授

漢代畫像石(磚)の調査と研究

受入教員 岡村教授

期間 二〇一七年九月二〇日～二〇一八年九月

一九日

。陳 奉林 北京師範大學歴史學院教授

東洋外交史

期間 二〇一七年一〇月一〇日～二〇一八年一

月一日

。張 璋琦 國立清華大學准教授

環境史の視點から見た食文化の繼承と活用―食

文化遺産の保護體制に關する日臺比較について

受入教員 藤原准教授

期間 二〇一七年十一月一日～二〇一八年六月

三〇日

。漆 麟 西南大學美術學院准教授

日中戰爭期のモダニズム美術に關する日中比較

研究

受入教員 石川教授

期間 二〇一七年十一月一五日～二〇一九年一

月一四日

。丁 雨 北京師範大學歴史學院講師

中國遼金時代の陶磁器の研究

期間 二〇一七年二月一五日～二〇一八年二

月二三日

。安 東強 中山大學歴史學系副教授

清朝政府と革命黨

期間 二〇一七年二月一八日～二〇一八年一

二月一七日

受入教員 石川教授

外國人共同研究者

Scherrmann, Sylke Ullrike

青島舊藏ドイツ語文獻中の法制關係資料の調

報

彙

査

- 受入教員 岩井教授  
 期間 二〇一二年四月一日～二〇一八年三月三十一日(繼續)
- 李 周炫 ソウル國立大學歴史研究所・ユソン  
 獎學財團獎學生  
 秦漢時代における國家の市場管理  
 受入教員 宮宅准教授  
 期間 二〇一六年八月三〇日～二〇一七年五月三十一日
- DE SOUZA, Lyle Francis ロンドン大學パー  
 ベック准講師  
 海外日系人の文學とディアスポラ・アイデン  
 ティティ  
 受入教員 竹澤教授  
 期間 二〇一六年九月一日～二〇一八年八月三十一日(繼續)
- PAPAZIAN, Frederic フランス國立科學研究  
 所センター科學史研究ラボ特任ソフトウェア  
 技術者  
 『百科全書』デジタル共同批評校訂版  
 (ENCORE) 構築のための技術開發  
 受入教員 王寺准教授  
 期間 二〇一七年二月二〇日～二〇一七年五月三十一日
- ERICSON, Kjell David コネチカット大學歴  
 史學部客員研究助手  
 ミキモトの眞珠産業の帝國規模での展開とそ  
 の資本主義的特質  
 受入教員 藤原准教授  
 期間 二〇一七年七月二日～二〇一九年七月一日
- LOUZON, Victor パリ政治學院 Junior  
 Teaching Fellow  
 日本植民地・占有地の戦時(一九三七-一九  
 四五)における青年の準軍事的動員  
 受入教員 石川教授  
 期間 二〇一七年七月一日～二〇一七年八月四日
- 陳 漢文 香港浸會大學中國語言文學系助理教  
 授  
 十三世紀後期・十四世紀初頭の臨安における文  
 人の文藝活動  
 受入教員 永田准教授  
 期間 二〇一七年七月二日～二〇一七年八月五日
- 李 媛 北海道大學文學研究科専門研究員  
 日本古辭書の翻刻階層モデルの構築に關する人  
 文情報學的研究  
 受入教員 安岡教授  
 期間 二〇一七年九月一日～二〇一九年九月一日
- 魏 永康 東北師範大學歴史文化學院講師  
 秦漢時代の民族政策と邊境統治  
 受入教員 宮宅准教授  
 期間 二〇一七年九月二日～二〇一八年九月二〇日
- 劉 家幸 中央研究院中國文哲研究所博士後研  
 究員  
 日本の漢文小説における佛教世界…江戸時代か  
 ら明治初期を中心に  
 受入教員 永田准教授  
 期間 二〇一八年一月八日～二〇一九年一月一七日
- 受託研究員  
 石 立善 上海師範大學哲學學院教授  
 日本所藏漢籍古抄本に關する總合的研究  
 受入教員 古勝准教授  
 期間 二〇一七年三月一日～二〇一七年八月三十一日
- 外國人研究生  
 梁 鎮海  
 明清交替期の地域社會…自己文書の視角から  
 受入教員 岩井教授  
 期間 二〇一六年四月一日～二〇一八年三月三十一日(繼續)
- Kaya Oguzhan  
 近世・近代日本における宗教と生活圏の研究  
 受入教員 稻葉教授  
 期間 二〇一七年四月一日～二〇一九年三月三十一日
- 金 英仁  
 近世京都の庶民生活空間としての門前町・北野  
 天満宮前町と祇園の比較を中心に  
 受入教員 岩城准教授

期間 二〇一七年四月一日～二〇一九年三月三十一日

。陳豪  
宋代佛教寺院の考古學的研究

期間 二〇一七年四月一日～二〇一八年三月三十一日  
受入教員 岡村教授

。李 濤  
六朝時代の佛教思想が繪畫創作にあたえた影響

期間 二〇一七年四月一日～二〇一八年三月三十一日  
受入教員 船山教授

。吳 虹  
六―七世紀日本における佛教美術遺存から見た東アジアの文化交流

期間 二〇一七年一月一日～二〇一八年九月三〇日  
受入教員 稻本准教授

。趙 晔  
近代日本における中國労働者―人口移動という視點から

期間 二〇一七年一月一日～二〇一九年三月三十一日  
受入教員 村上准教授

。Caraballo Ricardo  
日本の二重國籍者が國籍を放棄するプロセスに關する探究的研究

期間 二〇一七年一月一日～二〇一八年七月  
受入教員 竹澤教授

三二日

。Vargha Attila  
超境する日系二世アメリカ人のアイデンティティ

期間 二〇一八年一月一日～二〇二〇年三月三十一日  
受入教員 竹澤教授

。吳 日勳  
『莊子』郭象注の研究

期間 二〇一八年三月一日～二〇一八年八月三十一日  
受入教員 古勝准教授

短期交流學生

。姚 周霞  
北朝法制研究

期間 二〇一七年四月一日～二〇一七年六月三〇日  
受入教員 古勝准教授

。肖 藝曉  
中國古代の書籍史

期間 二〇一七年六月一日～二〇一七年六月二十五日  
受入教員 宮宅准教授

## 出版物

### 紀要

・東方學報 九二冊(紀要第一八三冊)

二〇一七年二月二〇日刊

・東洋學文獻類目二〇一五年度  
二〇一八年二月一〇日刊  
・人文學報 第一一〇號(紀要第一八二冊)  
二〇一七年七月三十一日刊

・ZINBUN number 48  
二〇一八年三月刊  
・人文學報 第一一號(紀要第一八四冊)  
二〇一八年三月三〇日刊

### 研究報告その他

・侵犯する身體 田中雅一編  
二〇一七年六月刊

・東方學資料叢刊 第二三冊 排印本十選 矢木毅編  
二〇一七年七月刊

・〈ポスト六八年〉と私たち―「現代思想と政治」の現在 市田良彦、王寺賢太編著  
二〇一七年一〇月刊

・東方學資料叢刊 第二四冊 松本文三郎舊藏龍門二十品拓本 稻本泰生、安岡素子編  
二〇一七年一〇月刊